

# 『一生懸命』幻の新座市議会報告第200弾!

たかむらともや

## 挑戦の意味

4月から新しい環境に飛び込む中学生、高校生、大学生、社会人のみなさん。このコロナの中での受験、お疲れ様でした。合格発表の日に笑顔になった子もいれば、涙を流した子もいたでしょう。僕も23歳の頃からずっと受験生と一緒にですが、合格発表の日は朝から胃が痛くなります。大喜びで一緒に笑うことが殆どでしたが、一緒に泣くこともありました。

でも、泣いた子達は間違いなく挑戦をした子達です。挑戦したから、ギリギリのところで落ちたんです。下を向くことはありません。どうか、胸を張ってください。

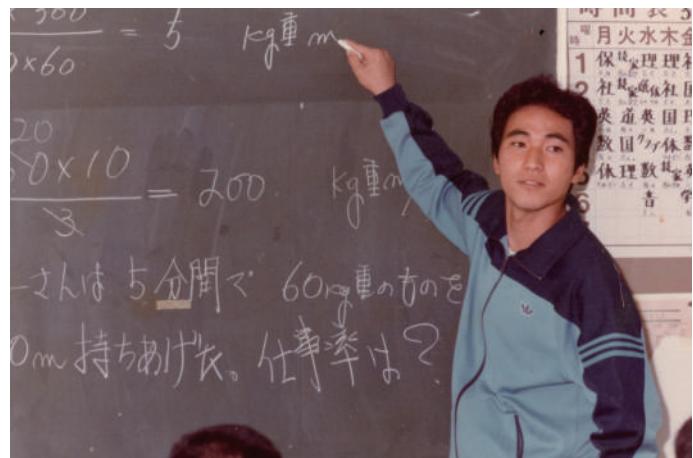
人生は「挑戦」の連続です。挑戦していれば失敗することだってあります。それが人生です。成功すれば勿論ですが、失敗しても、こつこつ努力して挑戦したことは、やがて本当の自信に繋がっていきます。

どんな道を歩いても、腐ることなく一生懸命努力していれば、また必ず何かに挑戦する日がきます。だから、今回の受験で笑った子も泣いた子も、挑戦した自分の努力を誇りに思って、新しい道を胸を張って歩いてください。残念ながら、挑戦出来なかつた子はこれから挑戦すればいい。人生は何歳になっても、いつからでも、挑戦し、やり直すことができますから。



この春の六中の卒業式で僕の六中最初の卒業生、由美子と再会した時の写真です。

2021年3月31日発行



五中時代、29歳頃の僕です。大学を卒業して直ぐに3年の担任に挑戦。これは3度目の3年生の担任の頃だと思います。

## たかやんのプロフィール



本名たかむらともや  
新宿区立西戸山中、石  
神井高、北海道大庭球  
部卒。どうしようもない  
悪ガキだったが、何故  
か出会う先生達に愛さ  
れて育つ。特に小学校1  
年生で出会った、向後  
美佐子先生と中学校の  
担任の河合隆慶先生に

出会ったことが、僕の人生に影響している。

大学3年の冬。新聞の「今学校で」を読み、教  
師になることを決意。テニスを止め、無理矢理  
教職の単位を取り、新座五中の教師になる。

新座五中・六中ではテニスに燃え、団体で関  
東・全国を制覇する。中学校の担任生活21年  
の後、「たかやん塾」を開校。現在も石神3丁  
目の自宅で中高生と学び続けている。市議会  
では富永孝子と「市民と語る会」を結成。

身長175センチ、体重69キロ、体脂肪率12.1  
%。血液型B型。写真は東久留米の24時間対  
応のジムでチューブトレーニングをしていると  
ころ。ほぼ毎日鍛えているのです。

たかやんの連絡先 自宅 042-456-8869 携帯 090-6497-5737

mail:takayanchan@jcom.home.ne.jp 〒352-0033 新座市石神3-19-32-106

## 扶養照会はやめよ！

菅総理は、コロナ危機によって生活に困窮している国民への支援について「最終的には生活保護がある」と国会で答弁しました。

しかし、生活保護には申請時に親族に問い合わせる「扶養照会」があり、扶養申請を躊躇わせる大きな要因となっています。

今回的一般質問では、この扶養照会は絶対に行うべきではないという趣旨の質問を行いました。親族と言っても三親等内の叔母叔父、甥姪まで連絡が行くのですから、考えただけでゾッとします。

親が経済的に自立していない子を扶養することは当たり前のことですが、それ以外の立場の人々にまで扶養を求めることがあります。

それでなくても、多くの人がギリギリの生活をしているのです。国にはセーフティーネットとしての生活保護のハードルを下げる義務があります。自民党政権は大企業には減税をしておいて、国民には消費税をはじめとする増税で、税金を筆り取ることばかり考えているから、国民の生活が苦しくなるのです。

そもそも、デフレなのに消費税を増税するなどあり得ないことです。コロナとデフレのダブルショックの今こそ、「消費税」を無くす時です。国保も介護保険も値上げです。菅自民党政権は「経世济民」の意味を知らないのでしょうか。



川掃除に参加してくれたこの二人の小学生達も今は高校生です。しかも右側の子は僕の母校、石神井高校に通っています。二人とも高校生活を楽しんでいるようです。

## 新座市議会中継2

この3月議会の一般質問でも「学力向上」を取り上げました。中学生達の「大量の課題」が学力低下を招いているからです。それに輪をかけて「家庭学習ノート」があります。小学生にまで「家庭学習ノート」をやらせているところがあるので困ったものです。

「記憶」するには書くことが一番などという大昔の理念を信じている若い先生達が余りにも多いことにショックを感じています。

授業が理解できない子達は大量の課題をやる時に、答えを丸写します。「書く」ことは記憶することの1つの手段ですが、絶対ではないし、「繰り返し読む」ことより優れているとは思えません。何より、書くことには時間がかかります。忙しい子ども達には酷なことなことですし、勉強が嫌いになるキッカケを作っているようなものです。

国会でも繰り返し読んで記憶することをしなかった大臣達の無様が繰り返し放映されています。僕の質問に対する教育長の答弁は「大きな転換期に差し掛かっている。貧困・いじめなどに対する新しい教育が求められる時代になってきた。中学校もこの4月から新しい学習指導要領になる。与えるだけじゃダメ。

これから提供されていく。個別最適化された学習を開拓していく。しかし、教師一人では無理だからAI型教材キュリナの導入を考えている。その子に合った指導。人工知能がプログラムを作る。全ての学校に導入できれば」というものでした。

北米では「differentiation」といって、個々の生徒に合った教え方をしたり、課題を出したりする教育理念が最優先されています。

新座市内中学校の一貫の大量の課題とは180度違う教育です。普段からdifferentiationを意識して欲しいものです。

何でもキュリナにお任せではどうかなとは思いますが、年間600円の副教材費で大量の課題から子ども達が解放されれば嬉しい限りです。そして、キュリナのデータを生かした授業が出来たら最高ですね。

